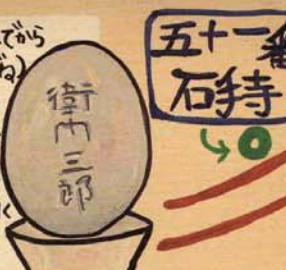


遍路マップ vol.2

浄瑠璃寺～石手寺

⑬石手寺 (2)を読んでから

その後、徳伊三郎は四国路を回るが終に大師には会えず、焼山寺のふもとで倒れてしまった。死を覚悟した三郎の前に弘法大師が現れ、三郎の罪は消えていると言った。三郎の死後、道後の領主・河野見利の妻が産んだ子は、徳伊三郎と書かれた一つの石を固く握っていた。



五十一番 石手寺

⑫湧ヶ淵伝説

人喰い大蛇を三好藏人秀勝が退治したという武勇伝の伝わる深い淵



⑪東野のお茶屋

琵琶湖の形をした池の残る場所。その池の周りには昔東海道五十三次宿舎をうつしたものがあつた。

⑩くわばらくわばら

大道寺矢柄助が雷神を退治した伝説の残る地。これ以降雷がなると「くわばらくわばら」と言うように。(雷が落ちなくなるよ!)

⑧久米群衛

かつて久米群を統轄する群衛のあつた地

⑦軍森の首なし馬

雨乞いの生けにえとなった首のない馬が雨夜の軍が森を駆けぬるんじやと……。



⑨空也上人像

日本史の教科書で有名な空也上人の像が安置されてるよ。



④杖の淵

日照りにもかかわらず弘法大師に水を差し出した優しい老婆。彼女の徳に応えた大師が杖で湧かせた泉は今も水はしを保っている。



⑥おさんさん狸

伊予八百里随一の神徳を持つ白狸(♀)。日清・日露戦争では高松出身兵士たちをかばい守ると言われています。

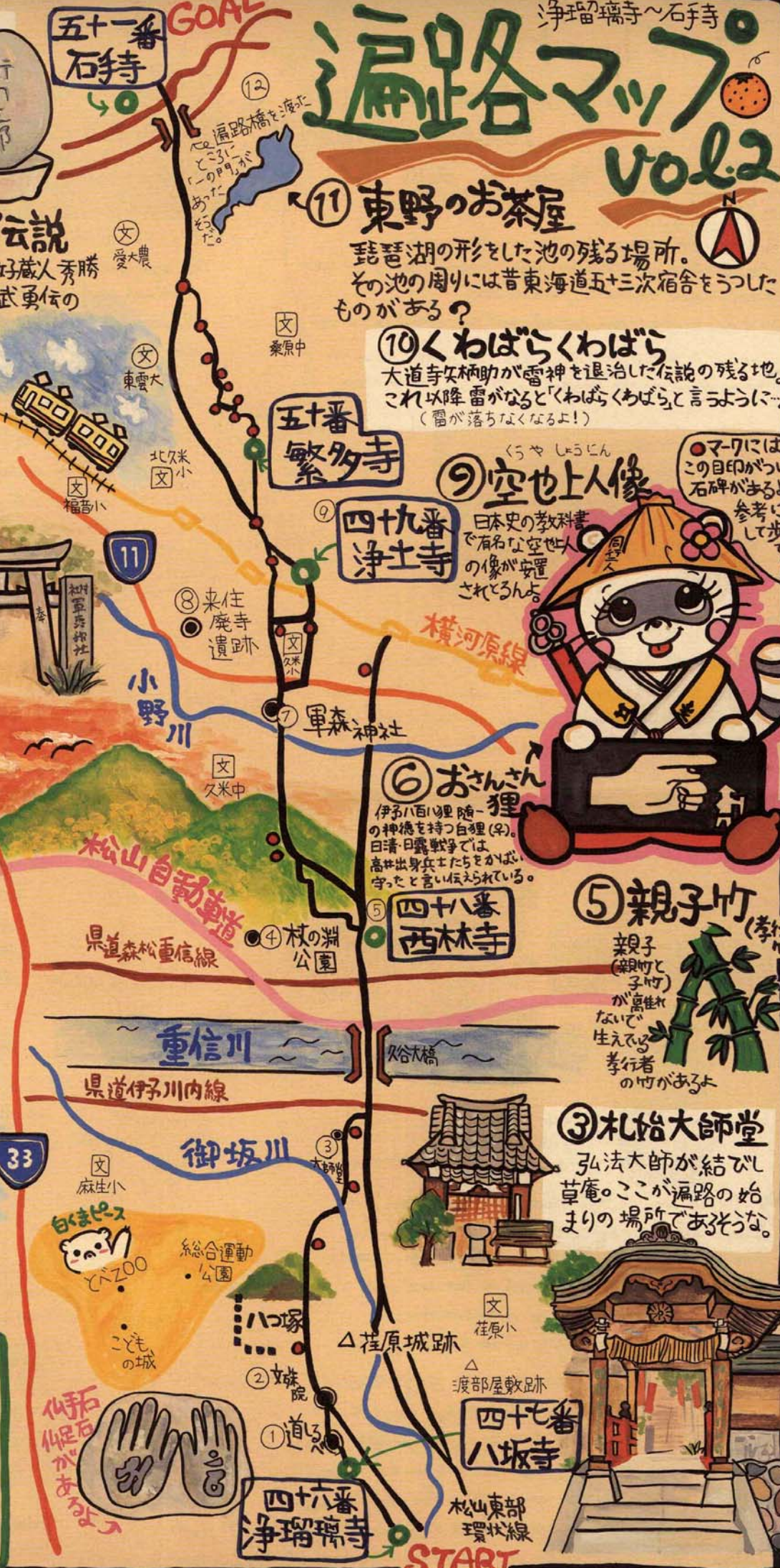
⑤親子竹

親子(親竹と子竹)が喜ばないで生ええる孝行者の竹があるよ。

②文殊院: 徳伊三郎

強欲非道の富豪として忌み嫌われていた徳伊三郎。ある日一人の僧が三郎の門前に立ち托鉢を行おうとしたが三郎は竹ぼうきで僧の托鉢を八つに割ってしまった。この僧とは弘法大師であった。その翌日から三郎の愛する八人の子が次々と急死。深い悲しみにくれた徳伊三郎は、今までの数々の行いを悔い改め高僧に会って懺悔しようと四国遍路の旅に出た。

①四国最古の遍路道



〈制作チーム〉

調査	秋山裕佑	村井啓晃
英訳	清水是也	伊藤愛
文章	緒方文謙	八木沙由梨
イラスト	西岡真希子	

松山大学人文学部 REBIRTH